



令和4年6月9日
海上保安庁

巡視船みずほが海賊しょう戒から帰港します！

～海上交通路の安全確保に貢献し、関係国との連携を確認～

海上保安庁は、東南アジア周辺海域における海賊対策の一環として、令和4年5月11日、巡視船「みずほ」をインドネシア周辺海域に派遣しました。

派遣中の5月24日(火)～27日(金)に、インドネシア・マカッサル沖にてインドネシア及びフィリピンと三国合同油防除訓練を実施し、また日米共同取組「SAPPHIRE(サファイア)」として、6月7日(火)に米国・グアム沖にて、米国沿岸警備隊との合同訓練を実施しました。

巡視船「みずほ」は、任務終了後の6月13日(月)に名古屋港へ帰港予定であり、6月15日(水)には入港式を行います。

海上保安庁では、海賊対策として、平成12年から東南アジア周辺海域に巡視船を派遣しています。海賊をはじめとする脅威に対して、法の支配に基づく自由で開かれた海洋秩序を実現することは、地域の平和、安定を支える上で不可欠なものです。

インドネシア周辺海域を含めた東南アジア周辺海域では、昨年1年間に56件の海賊等事案が発生しており、コロナ禍にあっても同事案への対処の取組を沿岸国とともに継続していく必要があります。

1 派遣巡視船

第四管区海上保安本部 名古屋海上保安部所属
巡視船みずほ
(総トン数6,000トン、ヘリコプター2機搭載型)



2 連携訓練等概要

(1) 日本関係船舶等との官民連携海賊対処訓練

5月13日(金)、伊勢湾南方海域において、当庁、株式会社商船三井及び民間船舶等における海賊発生情報の伝達経路を確認するとともに、日本関係船舶の海賊被害の防止及び迅速な救助体制の確立を目的として、連携訓練を実施しました。(5月20日、同訓練広報実施済み。)

(2) 日本・フィリピン・インドネシア三国合同油防除訓練(MARPOLEX2022)

5月24日(火)～27日(金)、インドネシア(マカッサル沖)において、フィリピン及びインドネシアの海上保安機関との協力関係促進及び油防除対応能力の向上を図るため、合同訓練を実施しました(6月2日、同訓練広報実施済み。)

※MARPOLEX(Marine Pollution Exercise)

フィリピンとインドネシアは、二国間協定(スラウェシ海排出油対応ネットワーク計画)に基づき、1988年から2年毎に合同で排出油防除訓練を実施してきたところ、1993年の我が国への参加招請を受け、1995年以降、当庁からも大型巡視船及び幹部職員を派遣し参加している。

(3)SAPPHIRE(サファイア)22 2022年第2回日米海上保安機関合同訓練

6月7日(火)、米国グアム沖合において、米国沿岸警備隊との連携・協力の強化のため、薬物密輸容疑のある外国漁船の取締りを想定した合同訓練を実施しました。(6月9日、同訓練広報実施済み。)